

開催報告 分科会

第21回クリティカルパス実践セミナーin熊本 —クリティカルパスの概念・必要性の理解と作成活用能力の向上—

山陰労災病院 第2消化器外科部長 若月俊郎



会場風景

先日第21回実践セミナー（平成18年2月15、16日）にコメンテーターとして参加させていただきましたが、あるグループの医者が不在となったためクリティカルパス作成にも参加させていただきました。参加者は山形県から沖縄県まで、クリティカルパスに詳しい人からこれから始める人までとさまざまでしたが、副院長、看護部長、副看護部長など要職の方が多いのびびっくりするとともにクリティカルパスの重要性を再認識しました。

1日目は学会でよく見かける先生によるクリティカルパスの講義があり、クリティカルパスの初心者でも講義を聞けばクリティカルパスの概略がよく理解できると思います。クリティカルパス作成はグループワークで行われ他病院の人達と知り合いになれば、他病院のクリティカルパスの現状が聞けて刺激を受けました。また国立病院機構熊本医療センターのクリティカルパス大会参加も今後の当院におけるクリティカルパス大会開催に参考になりました。欲を言えば①クリティカルパスに関して良く使用されている用語の講義があれば②クリティカルパス作成に費やす時間ももっとほしい③懇親会があればもっと多くの人と知り合えるなどと贅沢を考えます。出来ればこの会を合宿形式でしていただければ夜わいわいしながら②、③が解決されるのではと思います。さらに欲をいえば地方で開催していただければ、なかなか学会に参加できない医療者も有名な先生の講義を一度に聞けてなおかつ費用もかからず地方の人間にとってはありがたいことだと思います。しかし毎回毎回このセミナーを準備され、実践されている国立病院機構熊本医療センターの先生方には頭の下がる想いでした。

第1回地域連携クリティカルパス分科会

国際医療福祉大学附属三田病院副院長 武藤正樹



会場風景

このこともあって会場は超満員で、地域連携クリティカルパスに対する関心の高さが窺われました。

まず分科会では行政の立場から、厚生労働省医政局指導課の針田哲医療計画推進指導官より「医療連携と地域連携クリティ

カルパス」について発表がありました。第5次医療法改正の中で、がん、脳卒中、急性期心筋梗塞、糖尿病、小児医療、周産期、救急、災害医療、へき地医療の疾病別・事業別の診療ネットワークの構築が始まろうとしています。この診療ネットワークの中で地域連携クリティカルパスの果たす役割は大きく、実際に全国各地でその試みが始まっています。たとえば青森県では健康福祉部が主導して脳卒中の地域連携クリティカルパスのモデル事業がはじまっています。

つづいて国立病院機構熊本医療センターの野村一俊統括診療部長より、「地域連携クリティカルパスの基本と実例」が発表されました。野村先生によれば地域連携クリティカルパスの必要条件は以下のポイントです。①連携施設のスタッフ参加のもとに作成されていること、②施設間を越えた一貫した診療計画であること、③評価可能な達成目標が設定されていること、④達成目標に対するバリエーション収集分析が可能なこと、⑤医療者用クリティカルパスと患者用クリティカルパスがセットで作成されていること。また野村先生は熊本市でおこなっている整形外科分野の連携クリティカルパス研究会であるシームレス研究会のこれまでの活動を紹介されました。

最後に香川労災病院脳神経外科部長の藤本俊一郎先生より「地域連携クリティカルパスの実例」として香川県における取り組みが発表されました。香川県でも熊本市にならって地域連携クリティカルパスを検討する「シームレス研究会」が作られ、20医療機関があつまり4回の会合がもたれています。この中で脳卒中、大腿骨頸部骨折のクリティカルパスが検討されています。そしてそのデータベース登録のためのソフトも開発しているとの発表がなされました。

最後に香川労災病院脳神経外科部長の藤本俊一郎先生より「地域連携クリティカルパスの実例」として香川県における取り組みが発表されました。香川県でも熊本市にならって地域連携クリティカルパスを検討する「シームレス研究会」が作られ、20医療機関があつまり4回の会合がもたれています。この中で脳卒中、大腿骨頸部骨折のクリティカルパスが検討されています。そしてそのデータベース登録のためのソフトも開発しているとの発表がなされました。

最後に香川労災病院脳神経外科部長の藤本俊一郎先生より「地域連携クリティカルパスの実例」として香川県における取り組みが発表されました。香川県でも熊本市にならって地域連携クリティカルパスを検討する「シームレス研究会」が作られ、20医療機関があつまり4回の会合がもたれています。この中で脳卒中、大腿骨頸部骨折のクリティカルパスが検討されています。そしてそのデータベース登録のためのソフトも開発しているとの発表がなされました。

最後に香川労災病院脳神経外科部長の藤本俊一郎先生より「地域連携クリティカルパスの実例」として香川県における取り組みが発表されました。香川県でも熊本市にならって地域連携クリティカルパスを検討する「シームレス研究会」が作られ、20医療機関があつまり4回の会合がもたれています。この中で脳卒中、大腿骨頸部骨折のクリティカルパスが検討されています。そしてそのデータベース登録のためのソフトも開発しているとの発表がなされました。

開催報告 地方会

第3回高知県地方会

当番世話人：高知医療センター副院長 堀見忠司



会場風景

第3回医療マネジメント学会高知県地方会は平成17年8月27日（土）11:00～17:30の間に、新築されたばかりの高知医療センターのくろしおホールにおいて、クリティカルパスを中心にしたポスターセッション6

題、一般口演27題の発表のもとに、事前申し込み178名、当日追加参加数116名、計294名が参加して開催されました。

くろしおホールは総勢220名が座れる階段教室になっていますが、立ち見が出るほどの盛況でした。丁度、昼頃の発表の方と夕方の発表の方が入れ替わりになり、参加された総勢多数の方が座れました。

看護師、医療技術関係者、栄養士、薬剤師、医師など県下の西と東から多数の医療関係者が集まりましたが、もしかしたら学会参加よりも新築された高知医療センターの見学が主な目的ではないかと思われる参加者もいました。➤